

平成27年度 りんご技術情報（第4号）

大崎農業改良普及センター
TEL：0229-91-0726
平成27年8月

< 生育状況 >

本年の生育状況は、発芽期から満開期まで平年より早く推移し、その後も好天が続いたため、8月10日時点の果実肥大は良好で、果実の大きさは過去10年間で最も大きくなっています。高温少雨の影響で「つがる」を中心に日焼け果の発生が見られます。ページ下段の技術対策を参考にしてください。

表1 平成27年度 果実の肥大状況（調査地点：色麻町）

品種		タテ径	ヨコ径
ふじ	本年(mm)	65.6	72.1
	平年(mm) 平年比	59.1 111%	64.9 111%

< 栽培管理 >

○早生種の収穫前管理（葉摘み）

下記に留意して作業を行いましょ！

開始時期：おおよそ収穫7日前～14日前に行う。

実施手順：収穫までに2回に分けて実施し、1回目は果実に直接ついた果そう葉、2回目は果実周囲の葉を除去する。

注意点：早朝からの葉摘みは日焼けの原因となるので避け、果実温度が上がった日中に行う。日焼けが懸念される樹の外周部は葉摘みを行わない。

○枝つり・支柱立て

果実の肥大に伴い枝が下垂する時期となりますので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止のため、枝つりや支柱立てを実施しましょう。

< 高温・少雨に対する技術対策 >

- ・マルバカイドウを補助根として使用していないM.26やM.9を台木として使用し、穂品種が「つがる」、「ジョナゴールド」、「王林」などは、乾燥の影響が特に強く表れる。
- ・土壌条件によって異なるが、干天日数を目安にすると、5～9日無降雨状態が続いたら、かん水を開始する。かん水量は、20mm（20t/10a）程度を目安とする。
- ・主枝、亜主枝の背面や果実の直接日光が当たる部分は日焼けを起こしやすいので、徒長枝を少し残したりして日焼け防止に努める。
- ・草刈りの回数を増やし（草丈15cm～20cmを目安に刈る）、樹と草との水分競合を防ぐ。また、刈り取った草は樹冠下に集め、土壌水分の蒸発を防ぐ。

<病害虫情報>

○ハダニ類の防除情報が発表されました

(宮城県病害虫防除所 平成27年8月7日発表)

宮城県病害虫防除所が7月23～30日に行った巡回調査の結果、ハダニ類の1葉あたりの寄生頭数は0.3頭(平年値0.2頭)で平年よりもやや多く、発生地点率は41.7%(平年値8.2%)で平年よりも高い値でした。

○発生予察情報(8月の発生予報)

表2 病害虫発生予報(宮城県病害虫防除所 平成27年8月7日発表)

病害虫名	発生量	予報の根拠
斑点落葉病	平年並	<ul style="list-style-type: none">巡回調査の結果、新梢における発生地点率、発病葉率はともに平年より低く、徒長枝における発生地点率、発病葉率はともに平年並であった。(－～±)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並の予報となっている。(＋, ±)
キンモンホソガ	やや少	<ul style="list-style-type: none">巡回調査の結果、被害葉率は平年よりもやや低く、発生地点率は平年並であった。(－～±)20～25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の気温は高い予報となっている。(±)
ギンモンハモグリガ	少	<ul style="list-style-type: none">巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(－)
ハダニ類	多	<ul style="list-style-type: none">巡回調査の結果、1葉あたり寄生頭数は平年よりもやや多く、発生地点率は平年よりも高かった。(＋)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並の予報となっている。(＋, ±)

注) 予報の根拠…(＋)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：少なくなる要因

○防除のポイント(ハダニ類)

- 要防除水準は、1葉あたりの寄生頭数が3頭以上に達している場合です。ほ場をよく見回り、発生状況に応じて、薬剤防除を実施しましょう。
- 薬剤防除は、不要な枝等の除去を行ってから散布すると効果的です。
- ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいため、散布後の状況をよく観察して効果を確認してください。
- 気門封鎖型薬剤は残効性がないため、薬液が虫体に充分かかるよう樹全体に丁寧に散布しましょう。また、卵には効果がないため、5～7日間隔で連続散布するか、他薬剤とローテーション散布を行いましょう。
- 薬剤の有効成分によっては、防除効果の発現まで時間がかかるものもあるので、薬剤の性質を理解した上で防除効果を確認してください。